

令和6年度 第2回古賀市文化芸術審議会議事録

日 時：令和6年10月3日(水) 14時00分～15時00分

場 所：市役所第一庁舎4階第一委員会室

出 席：審議会委員 都甲康至会長、吉田公子副会長、谷口治委員、柴田智子委員、
松田信一郎委員、伊藤綾委員、村山公之委員、大音明洋委員
事務局 桐原誠教育部長、柴田博樹文化課長、杉村幸一歴史資料館長、
文化振興係(平係長他1名)

欠 席：なし

傍聴者：なし

配布資料

- ① レジюме(事前配布)
- ② 古賀市文化芸術審議会委員名簿(事前配布)
- ③ 第2期古賀市文化芸術振興計画(冊子)(事前配布)
- ④ 資料1 令和5年度文化芸術関連事業報告書(2種類)(事前配布)
- ⑤ 資料2 今期の協議事項について(事前配布)
- ⑥ 資料3 前期委員からの提案内容(事前配布)
- ⑦ 資料4 団体への実施アンケート(3種類)(事前配布)
- ⑧ 第2期古賀市文化芸術振興計画(抜粋)(当日配布)

1 開会のことば

2 会長あいさつ

3 協議事項

(1) 第2期古賀市文化芸術振興計画の進捗管理に係るアンケートの設問項目について

都甲会長：それでは事務局から進行を引き継ぎ、私の方で務めさせていただきます。協議事項ということで第2期古賀市文化芸術振興計画の進捗管理に関わるアンケートの質問項目ということにさせていただきます。団体についてのアンケート、それから行政に関するアンケートの二つでございます。事務局のほうでこのアンケートの項目について、たたき台がつけられておりますので、まずは事務局より説明をお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

事務局：はい。協議事項「第2期計画のアンケートの設問項目について」の資料について、説明をさせていただきます。

まず、資料1についてです。こちらは、前回お渡しした資料1のうち、進捗管理に係る部分のみ抜き出しています。今回は、団体及び行政の設問項目について皆様と協議をしたいと考えています。なお、上の表、備考欄に記載のとおり、団体は活動と運営について、行政は主催の事業についての進捗管理となっており、後ほど説明する資料でも、その部分についての設問内容となっておりますのでご留意ください。

次に、資料2についてです。こちら、前回お渡しした資料2のものとなります。今回、進捗管理の設問項目について整理するため、参考のため配布しております。それでは、今回の協議事項の団体及び行政の進捗管理に関する、資料の説明をさせていただきます。

それでは今回の協議事項の団体及び行政の進捗管理に関する資料になります。

まず、資料3、団体アンケートになります。資料3は、まとめてホッチキス止めしております。資料の3-1では、団体アンケートの目的や確認の手法等について記載しているものとなります。資料3-2がアンケートの本文になります。第2期計画の概要図にあるように、市民のビジョン達成のため、団体・行政の活動目標がありますので、設問(1)～(7)で、期間内における団体活動をふりかえり、それから設問(8)で市民のビジョンはどうだったかの自己評価につなげる形にしております。現時点での予測ですが、リーパスを中心に活動されている文化協会所属の団体からアンケートにご協力していただくということになるのかなと考えています。

次に、資料4、行政の事業報告になります。こちらの資料4も、まとめてホッチキス止めしております。行政の報告は、資料3の団体アンケートと考え方が異なるかなと思っています。団体は一つの団体を1事業者と考えて、活動や運営を確認していくというアンケートの形になっていますが、行政は各課の事業を取りまとめて、市として報告書を提出する形になっています。これは、各課が「文化芸術の振興」を主目的として事業を実施しているわけではないというところがあり、事業を実施するうえでのツールとして文化芸術を使用し、事業による各課の目的達成の過程で、文化芸術に関する行政の活動目標を達成していくのかなと考えられますので、報告書の設問については、資料4-2のように事業についてお聞きするという内容にしております。資料の4-1では、団体と同じように、報告の際の事業のふりかえりにあたっての手法を記載しており、これに基づいて事業評価等を記載していただくという形になっております。そして、団体のアンケートとは異なるところが、資料4-3の総合評価です。こちらに書いてある数字はあくまで例ですが、「行政の活動目標をどれだけ達成したのか」というところが最終的に「市民の文化芸術活動ビジョンをどれだけ満たしているか」というところにリンクするかなと思われまので、評価として下の表にてビジョンの事業数やパーセンテージをあらわしているというものになります。また、真ん中の「自己評価」や「今後の方向性」というところは、各課より提出された報告での各事業の自己評価や今後の方向性を、各項目における各事業数としてまとめた内容となります。

併せて、今回、資料を一つ追加配布しております。第2期計画の本文である第2章と概要図になります。「団体のアンケート」及び「行政の報告書」を皆様と協議する中で、こちらを確認しながら、ご意見をいただけたらと思っております。

資料の説明は以上になります。

都甲会長：はい、ありがとうございます。そうしましたらまず資料について、項目や内容について、質問等ございますか。

はい、大音委員、どうぞ。

大音委員：1点だけ確認させていただきたいのですが、資料4-1に行政の事業報告が、ありますよね。それでこの資料4-2の、「3事業の評価」というところに、自己評価ってありますが、この評価というのは、誰の評価なのかちょっとわかんなかったのですが。

事務局：はい、資料4-2の「自己評価」は誰が評価するのかということですね。

こちらは第1期計画のときも審議会には行政の事業報告ということで報告書を提出させていただいておりましたけれども、各事業の内容について作成しているのは事業を主催している担当課になります。この第2期計画も、各事業の各担当課に回答していただいて、それを事務局が取りまとめてから、審議会へ提出するという形になるかと思ひ、この自己評価を記載するのは、事業担当課の自己評価になるかなと思っております。数値としては、資料4-1に記載して

いる自己評価欄の4段階のうちどれに該当するか、というところを記載していただくかなと
考えております。

大音委員：分かりました。要は自己評価というのはあくまでもこの担当課の評価という意味です
ね。

事務局：はい、そうですね。

大音委員：団体ではないということですね。

事務局：そうですね、こちらは行政が主催の事業についての報告となりますので、行政側の自己
評価となるかと思えます。

大音委員：分かりました。了解です。

都甲会長：はい。どうも、ありがとうございます。ほか、ございますか。はい、谷口委員。

谷口委員：谷口です。行政の分で、各課で委託という形で実施されている事業もあると思いま
す。それは委託されているところが、報告書をまとめて、担当部署とかにヒアリングかけられ
て、それで、こちらに入ってきている。実際の市民と接触している生の声というのが、フィル
ターがかかって入ってきてないのかなという気もするので、そのあたりの委託業者に対する生
のデータみたいなのが反映できないのかなと思いました。

また、市がどれだけ、こういう文化芸術のお金をかけているじゃないけれど、事業費が全然
見えないんですね。どこかに委託した委託料とか、単独の、自主事業もあると思えますが、そ
のときに予算はどのぐらいつけているのか、会計監査とか予算決算とかであれば見えています
けれど、それぞれ細部が細かく入ってきて、素人でも見ても分からない事項だからこういう事業
に対して、いくらぐらい市はお金をかけて、本気でやっているかという、お金の面の記載があ
ればうれしいなと思えます。

そういう、これ、去年というか1回目のときに、アンケートの報告が出ているので、それを
見ながら、そういうところが出たらもっと吸い上げられるのかなと思いましたので、提案では
ないですけど、そういうことが項目として作れないかなと思って発言しました。

都甲会長：はい、ありがとうございます。

中身の話になりそうなので、レジメの順番のとおり、団体の分から、項目と内容について、
この方向でいいのかなど話したいと思えます。行政の分は後ほどということでもよろしいでしょ
うか。

谷口委員：はい。

都甲会長：はい、それでは、行政の分は、後ほど協議したいと思えます。

① 団体の項目及び内容について

都甲会長：それでは、団体のアンケートについて、具体的には資料3-1になりますが、こちらに
ついて項目及び内容についてご意見、質問等ございますか。

まず私のほうから1点、内容というよりは、団体のアンケートの頻度についてお尋ねです
が、こちらは、毎年、それとも5年に1回とかに実施するのでしょうか。前回、そのあたりの議
論は出たのでしょうか。頻度について何かお考えがあれば、事務局にお答えいただきたいで
す。

事務局：はい。今の件につきましてなんですけれども、前回は特に議論にはならなかったのです

が、ご提案という形でさせていただいたのが、どの範囲ぐらいの団体にアンケートを実施するのか、その範囲によっては、毎年を実施することもできますし、大がかりになるということであれば、見直し等々含めて3年とか5年に1回ということにもなろうかと思っておりますので、その辺りもご検討いただくとありがたいなと考えております。以上です。

都甲会長：はい、ありがとうございます。ということは最初から大規模っていうのはなかなか難しいかとは思っているので、今年度も10月になってきているので、この団体のアンケートについては、これでもうまくいくのかどうかというテストを、何団体かご協力いただける団体をお願いしたらいかがかなと思っておりますので、委員のみなさまにご提案させていただきます。

そういった内容も含めて、皆さんから賛成でも反対でもご意見あれば、お願いいたします。

谷口委員：前回の実施分は、平成30年度と令和3年にと実施されていますよね。これはアクションプランの見直しとかの結果のために調べるとのことでの実施でしたが、前はは逐次動向を見たいとか、そういう話でアンケートをしたほうが良いという話が出ていたと思います。それと前回の話の中で、ここの資料2でもありますが、古賀市や古賀市教育委員会が後援している事業で、各実施団体がそれぞれアンケートを取られているので、その項目の中にできるところがあったら直接市民のアンケートの結果、それを抽出してもらえないか、抽出というかそういうのもここに含まれたらいいかなって、ここの中には出てないのですが、例えば「古賀のたから」の部門で入っていれば、「古賀のたからはどんなことですか、どういうところだと思いますか」という市民1人ずつのアンケートに出て、それを団体から持ってくるっていうのも一つのアイデアだと思います。

だから定期的な、このアンケート以外にも、そういうふうなものもこう、かなり、大規模な事業とかもあるので、市民の多くの意見、文化に対する意見が出るのではないかと。それは各団体のところが面倒とか嫌だとかいう、あれだけできるだけそういう協力をお願いしてか、各団体主催のところのアンケートに、この内容をひな形みたいなのでこの項目をつけていただきたいみたいな形ですれば、市民のニーズが、これは団体と行政だけですし、そこから市民の多くの市民の意見があがってくるかなと思っています。以上です。

都甲会長：ありがとうございます。ちょっと理解できていない箇所があるのですが、それは各団体へ、一つのひな形として、プラスとしていろんなことを聞けるのであれば、聞いてもいいというようなご意見ということで理解してよろしいのでしょうか。

谷口委員：各団体のアンケートは、2年に1回とか、5年に1回とか決められたことでいいんでしょうけれど、それで全体的な団体の動向を見ますけど、各団体がいろんなイベントをしますよね。そのときに各団体はアンケートをとっているんですよ。どんなところがよかったとか、評価とかですね、その評価の中に、例えばここで求められている古賀のたからは何でしょうかとか、そういう項目をつけ加えていただいて、そのデータをとると、市民の意見が直接反映されるかなって、そういうのも定期的じゃなくて、大きい団体がイベントするところに追加してもらって吸い上げたらどうかという話です。このアンケートは、定期的に事業があるだけ、煩雑でしょうけれど、すみませんそういう意味で言いました。分かりにくいですよ。

都甲会長：はい、事務局お願いします。

事務局：今の谷口委員のいただいたご意見を整理させていただきたいのですが、今回、審議会の資料として提出させていただいた資料3、こちらは定期的に団体へお願いして実施するとして、それとは別に、例えば市や教育委員会が後援許可を出した事業に対して、実施主体に対し

て「参加者へのアンケートにこういう項目を聞いてほしい」というところをご依頼してはどうか、ということでしょうか。

谷口委員：はい、大体そうですね。今までは大体の団体が、主に自分たちの運営のためにアンケートをとられているんですね。その中に追加してもらって、第2期計画に合った古賀のたからとかを、市民がどう思っているのかを吸い上げたら市民の動向が分かるのではないかとということで、プラスアルファでそういうことを出せないかなと思ひ、お願いできないかなと思ひています。

都甲会長：はい、事務局。

事務局：はい。ここで言うアンケートに関しては団体に向けてのアンケートとさせていただくということで、プラスアルファとして、教育委員会として後援許可を出す後援事業等で何かしら統一した項目を聞けば、市民ニーズも拾えますよ、というご提案だと思います。なるほどなというふうに思いましたので、別の角度で考えさせていただければと思います。

都甲会長：はい。谷口委員よろしいでしょうか。別の角度だそうです。

事務局：すみません。分かりにくかったのですが、団体の運営あるいは事業に関して団体の評価を聞いていくというのが一つありまして、団体が主催の事業でアンケートをとる場合に「自分の運営どうですか」というアンケートは絶対とれませんので、事業の評価にしかならないと思ひます。

そのため、その事業の評価、プラス、教育委員会としてこの文化振興計画に関して「振興計画そのものをご存じですか」「どういう内容かご存じですか」「古賀のたからとは」というようなことを聞いていくというのは、市民ニーズを拾えることだと思いますので、それをある程度義務化と言うと失礼なんですけど、とらせていただくことによって、そういったことが見えてくるという意味合いで、別の角度からというふうに申し上げました。

都甲会長：はい、ありがとうございます。谷口委員よろしいですか。

谷口委員：はい。

都甲会長：そういう市民ニーズを拾い上げる意味でも、一度、アンケートをとってみて、こういう質問をしたほうがよかったねというような、反省というかやってみてその結果をこの審議会で議論してもいいのかなというふうに思ひました。

はい、伊藤委員。

伊藤委員：はい。先ほど谷口委員がおっしゃられていた、その古賀のたからという話があったので、その団体のアンケートの設問(6)「これまで古賀のたからをテーマに行ったことがありますか」がその回数だけを書いてあるので、何かここに実際のたからの内容というか、それを記入する欄があると「古賀のたからって何があるかな」というふうに考えるかなと思ひたので、古賀のたからが思いあたらなかったり、古賀のたからをテーマに行ったことはなくても、何があるかなというふうに考えたりするかなとも思ひるので、そういう欄をつけてみるのもいいかなあというふうに思ひました。

都甲会長：はい、ありがとうございます。この設問(6)の項目に記入事項を足してみたり、聞いてみたりするのもいいのではないかといいことですね。古賀のたからについては、私もいろいろ事務局に質問をしたところ、まだまとまっていないようだったので、先に市民に聞くのもいいのかもしれないですね。

はい、吉田副会長。

吉田副会長：はい、吉田です。設問(8)のところで、これまでの設問(1)から(7)を振り返って、市民の文化芸術活動ビジョンごとの自己評価をつけてくださいということで、この自己評価の項目が6つあって、これがもともと、設けられていた団体等の活動目標の①から⑥に、対応している内容になっていると思いますが、団体等の活動目標では6番の内容は「団体継続のための人材育成、文化芸術の意義を正しく認識し、文化芸術活動に携わったり、積極的に関わる人を増やそう」とあるので、今の設問(8)のビジョンの⑥は「市民が古賀市の文化芸術文化財の魅力を発見し、未来に伝えたいと思う」ということのため、この人材、育成というか、もうちょっと積極的に関わる人がどうだったかっていうことを聞くことができたらいいかなと思いました。

例えば「市民が古賀市の文化芸術や、文化財の魅力を発見し、今後、より多くの市民が文化芸術活動に積極的に、継続的に関わるようになったと感じた」とか、他の項目の活動目標はもともとの目標に対応しているので、設問(8)の⑥はもう少し考えるといいのかなと思いました。以上です。

都甲会長：はい、ありがとうございます。団体の活動目標の状況は、設問(2)で確認していますので、今の設問(8)というのは、市民の文化芸術活動ビジョン、団体の活動を通じて市民はどうだったのか、ということをご自己評価してはいかがかということです。

吉田副会長：はい。今私が意見したところ、ちょっと見当違いだったかもしれません。すみません。

都甲会長：はい、大音委員。

大音委員：資料3-1ですが、この設問(9)、設問(8)に絡んで、設問(9)で文化活動を行うにあたり、いわゆる現在の古賀市の環境をどう感じますかということで、活動しやすいから活動しにくいまでありますが、要は単に丸にしてみると、多分、それぞれの団体さんは、感じていることいろいろあると思いますが、そういったこと、具体的にはここに書いたらどうなのかなとちょっと思ったんですけども、そういうのと、あと、設問(10)なんですけれども、いわゆる課題ということなんですけれども、あと、課題とか改善事項といったものも分かれば、もうここについても変えてしまったほうが、いわゆるこの資料、この団体の資料3-2のそれぞれの団体が、この1枚で結局全部がまとめられるようにしておいたほうが、行政のほうにおいても分かりやすいんじゃないかなと思って、そういうふうに見ていたんですけども、それは合っていますか、間違っていますか、私の考えが間違っていたら教えてください。

都甲会長：事務局、いかがですか。

事務局：はい、質問の内容について確認をされていますか。まず、設問(9)について、今活動しやすいから活動しにくいという5段階のところを、「どういったところがそう感じるのか」のような具体的なことを聞ける項目に変えたほうがいいということでしょうか。

都甲会長：では、まず設問(9)から確認しましょうか。

大音委員：はい、ほとんどそうです。けれども、いわゆるこのそれぞれのどれに該当するか多分団体の名前をつけて、それを具体的にどんなものですかというのを書いていたほうが、このシート1枚で分かりやすいのではないかなということをご考えた次第です。

都甲会長：はい、事務局。

事務局：はい、つまり5段階で丸をつける、ということに加えて、どういうところが活動しやすいのか、どういうところが活動しにくいのかということをご聞く項目があったほうがいいという

ことですね。

大音委員：そういうこと。いわゆる団体がこれを感じているわけですよね。こういうふうには、ここへ丸つけたから、それはどういう具体的に何、ではいいですよね。なんでここにそうになっているかというのを書いたら、まとめたらどうですかという質問です。

都甲会長：はい。その理由をお聞かせくださいというような問いを、設問(9)の次に入れるとかそんなことですね。

大音委員：はい。

事務局：確かに設問(9)では、活動しやすいか・しにくいかということで、活動しにくい・ややしにくい、であれば課題について書かれることになると思いますし、活動しやすい・ややしにくい、ということになれば、課題ではないので、どういったことを評価されているのか分りにくいということが、分かりましたので、ぜひ理由を聞かせてくださいという項目を設けたほうがいいなというふうに感じておりますので、そのようにさせていただきたいと思います。

大音委員：別に難しい、上がってきている内容をここにされている方、当然、団体が評価されているから、それを書いていただければいいと、それだけです。

都甲会長：はい、ありがとうございます。そうしましたら、村山委員は何かありますでしょうか。

村山委員：はい、特にありません。

都甲会長：はい、分かりました。柴田委員いかがでしょうか。

柴田委員：いいですかね。内容の部分ですこし。災害時というところの部分が、なんとなく読んでもよくわかんないのですが、実際、起こらないほうが1番いいですが、ただ災害時っていうときにどういうふうにするのかというのは、アンケートになったとしても、どう答えていいか、その質問で自分がもし書くことになったときに、実際災害時ではないし、準備はしているけど、という形で何か曖昧になりそうなので、そこらあたりが読んでいてわかんないなと思っています。質問というか、どういうふうに、何か答えていいのかとか、災害はないほうがいいですけども、その準備をしているとか、していないとか、そういう断片的な形になってしまうんじゃないかと考えました。前のアンケートでも具体的にあるんだな、というぐらいしか、今回初めての参加なので、よく分かっていないのですけれども、災害時の質問に答えられるのかなと自分に置き換えると、どうかなっていう気がしています。

都甲会長：はい、ありがとうございます。質問の災害時の時はどう書くのか、というのは、設問(2)の4番ということですよ。

この項目、この活動目標をつくった時点では、確かコロナとかの話題が出ていて、でもコロナだけではないよねということで災害も入ったような記憶があります。今の項目では、コロナの表現がなくなって、災害だけが強くなっていると思われ、この表現が腑に落ちないというか、なかなか書きようがないのかもしれないですね。この「災害時」の表現がちょっと難しいかもしれないですね。

はい、事務局。

事務局：確かに、会長おっしゃるように「コロナの時も文化の灯火を消さない」みたいなキャッチフレーズでした。「そういう環境にあっても文化は続けていきましょう」という理念があったもので、こういった項目が入ってきましたが、確かに平常時にこれだけ見ると、例えば台風が来たから事業ができないにも関わらずやりなさい、というふうにとられかねない部分もあり

ますので、ここの項目は状況に応じて、入れたり外したりっていうことも必要なのかなあというふうには今考えたのですが、そういった意味合いで協議をしていただけるとありがたいなと思います。

都甲会長：はい、分かりました。おそらくここの表現については、アンケートを実施する時点で、その都度、少し表現を変えてもいいのかもしれませんがね。今、柴田委員のご意見を伺いながら感じた次第です。特に台風とか地震とかのときに、なかなかそのまま続けなさいというのは、趣旨が違ふような、無理なような感じがします。以前、専門部会等の議論の中でこういう話も出たかと思いますが、そのあたりのところ、伊藤委員どうでしたか。

そうですね。その時、あんまりそこまでは考えてなかったかもしれませんね。

大音委員：災害時の中でも、ということは、今、会長が言われるように、そこまで考えていなかったのではないかなと思います。災害もありますけれども、どちらかというところと異常時という感じですかね。

事務局：私も専門部会に出席させていただいて、補足なのですが、時代の変化ということがあって、次期計画に何かこう新しいものというか、前計画のときになかったものをやっぱり盛り込まないといけないですよという議論になり、前計画と何が大きく変わったかというところ、災害などがあったということがありまして、それを反映した形で一つ載せましょうという話題になったと思います。

そういう経緯から載っていますので、コロナだったり、震災だったりも含めてではあるんですが、災害時だから何々しなさいということではなくて、先ほど言いましたように、文化の灯火を消さないで継続していきましょうね、という理念に基づくとこのところ、考えていただければいいと思いますので、決して無意味ではなかったというか、そういった意味合いで、ぜひこれは載せるべきだということで議題に上がっておりましたのでご報告いたします。以上です。

都甲会長：はい、ありがとうございます。

大音委員：推進というのを消してはどうですか、継続みたいな感じに。推進って言っちゃうと、そんなときでもやらなきゃ、マストじゃなきゃいけないっていう感じで、ベターですかね。やっていきましょうというふうな丸く表現しちゃえばどうかなと。すぐ流されちゃうんですけれども、何かそういういい表現があればそれでいいのかなと思います。事務局が言われたように、そういう、消さない方向のものであればいいと。

都甲会長：活動目標そのものを変えるというのは現時点では難しいかと思うので、アンケートの中でその表現を少し変えていくという程度にしておいて、具体的な表現というのは事務局さんにも考えていただくような形でよろしいんじゃないかなと思います。理念というのは、文化の灯を消さないとか、推進というよりも継続するとか、しましたかとか、そういうような言い方でもいいのかもしれませんが。

実際にアンケートを行うときに、もう少し文言のチェックをしていけばいいかなというふうに思いますが、いかがでしょうか。よろしいですか、柴田委員。

柴田委員：はい。いいです。

谷口委員：すみません。最初のところに会員数で、年齢別っていうのがうたわれていますよね。内訳で人数書くようになってるところ。ここの中で、トータル的に古賀市内の居住者数というか、古賀市内の人数をとっていただければいいかなと。具体的に言えば、リーパスプラザと

かは、団体の過半数以上が古賀市内在住でないと特典ではないけれど、長期的な利用とかができない状態なんですね。だから、そのあたりの割合と、古賀市の文化で貢献してでも、構成員が過半数以下のところはちょっとやりづらいです。やりづらいというか、ここに書いてある、環境のところではやっぱり活動しにくいとか、環境が悪いとかいう判断になってくるので、そのあたりが全体でどれくらいあるかとかいうのを見て、そういう制度をこう考えていただきたいなと思っています。以上です。

都甲会長：そういう制度になっているのですね。この表現はよろしいですか、谷口委員。

谷口委員：はい。これにプラスして古賀市在住の人が何名かとか、古賀市在住のパーセンテージもつけたらいいのではないかと。そうすると公開していただいて、現に、いろんなものを利用とかするとき、過半数以上がいないと、制度が利用できないっていう条件があるんですね。そういう団体のところが、古賀ではやっぱり運営にあたって、ちょっと環境が悪いなと感じているところがあると思うので、そういう団体がどれくらいあるかとか、そういうのが活動の中でやりやすいっていう環境がよくなるかもしれないので、その部分があればいいなと思いました。

事務局：ただいまの谷口委員の意見ですが、対象者のアンケートを取る対象をどうするかっていうところにあると思います。例えば、文化協会さんとか、エコけんさんみたいな大きなところに、毎年何団体かだけにアンケートを実施するというのであれば、特段必要ないような気もしますが、いろんな団体にランダムに実施するような場合には、そういった活動のしづらさというのは言っていないと分からないところもあるので、非常に参考になるなというふうに思っております。アンケートを実施する対象によりきりとは思いますが、できるだけ入れる方向で考えたかどうか、というふうに事務局としては判断しております。以上です。

都甲会長：はい、ありがとうございます。例年は各団体に実施していましたかね。

事務局：はい。前回実施させていただいたのは、大きなところで文化協会さんとかエコけんさんとか、そういった大きなところを数団体お聞きしたというような状況です。前は10数団体で、文化協会さん、まちづくりさん、エコけんさんつながり広場さんとかにアンケートを実施させていただいて、というふうになっております。あと10数団体くらいあったような気がしましたが、文化協会所属の団体がいくつか答えてくださったということで、トータルいくつか、詳しい数字が分からないのですが、実施しています。

都甲会長：分かりました。会員に関して、例えば、資料3-2の冒頭の会員数のところにでも古賀市の住民比率とか、何か括弧づけで記入できるようにというのも、個別の団体についてはありかなというふうに思いますね。そういうことも考慮していただければいいのではないかなと思います。

全体の時間の配分もあるかと思しますので、団体のアンケートの件は一旦ここまでにしめて、次の行政の方に移りたいと思いますけどよろしいでしょうか。

② 行政の項目及び内容について

都甲会長：それでは、資料の4-1に移りたいと思います。ここの、先ほどの谷口委員のご意見、事業費とか委託事業者とかのような内容を設問としてあげて報告書に書いていただければ、ということでしたかね。

谷口委員：はい。

都甲会長：事務局、いかがでしょうか。

事務局：先ほどの谷口委員からご意見が2点あったと思います。委託先の意向を反映できないかということですが、確かに伝言ゲームのようにはなりませんので、もしかしたらそこらあたりもあるかもしれませんけれども、基本的には委託先から聞き取りした部分で、ちゃんとした回答をするという前提になっておりますので、そのあたりは大丈夫だと思っていただけるとありがたいと思います。

それから事業費に関してですが、人件費を含めてトータルコストにするのかどうかということも含めると、各課でばらばらになってしまうので事細かに説明が難しいところもありますので、検討はさせていただきたいと思いますが、例えば、鍵盤ハーモニカを使われた事業で、購入したイニシャルコストがあって、それをずっと使っていくんだったら、毎年そんなにお金がかからないとかそういったこともあるので、研究のほうをさせていただければと思っております。ちゃんとした基準が確立できるのであれば事業費を記入できるかもしれないということなので、研究というような検討に近いのかなというふうに自分たちは思っております。

都甲会長：はい、ありがとうございます。事業費の記入に関して、どうするかについては、事務局の方でご検討いただければと思います。

1点、事務局に質問ですが、事業報告書というのがありますが、それは各担当課が、実施した事業についての報告書として書くもので、その事業報告書を事務局のほうで一旦取りまとめるってことの意味でよろしいですか。（具体的な手順が）分からなかったもので、はい、事務局。

事務局：はい。各課が回答したものを、事務局にて取りまとめて審議会のほうに提出することになるかなと考えております。

都甲会長：ということは、原本のほうは特段表に、審議会のほうには出てこない、というふうに理解してよろしいですか。今までは何か出ていたような気もしたのですけれど。

事務局：はい。第1期計画のときも確かに各課が記載したものを、誤字脱字があれば修正してからそのまま提出させていただいたところで、その流れを引き継ぐだろうと思っておりますので、各課が各事業について資料4-2の報告書を出していただいて、それを審議会に提出する形になるかなと思っております。それと併せて、資料4-3にて、市全体としての文化芸術関連事業の報告と市の総合評価を取りまとめてから提出する形はどうか、というところでご提案として資料4を作成しております。

都甲会長：ということは総合評価を新たにこういう表現で提出すると、行政の分についてはまとめるという理解でよろしいですかね。

事務局：はい、そうです。

都甲会長：ということだそうですので、そのあたりにつきましても、皆さんのほうから、何らかの質問やご意見があれば、お願いします。

吉田副会長：すみません、質問なのですが、この資料の4-3のところで「数字は例です」ということで挙げられていて、市民の文化芸術活動ビジョンで1から6項目があって、上の表の行政の活動目標の数値が事業数というところですが、そのまま、たまたまではなく、これをあえてこういうふうになっているんですかね。これは何かというとその資料の4-2で見る、この行政の担当の課で、この事業は、活動目標が該当するなんていうところ、複数回答するという

ことですよ。

事務局：はい。資料の4-2にて、各課の事業で、各課が行政の活動目標の6項目のうち、この事業はどこが該当するのかというところをチェックつけていただいた事業が、資料4-3としてまとめて出てくるかなど。そして、団体と行政の違うところというのが、団体は自分たちの事業と運営を自分たちで判断、回答できますが、市はそうではなく、先に説明させていただいたり、各課の事業が文化芸術の振興を目的として事業を実施しているということではなく、文化芸術をツールとして使用し、各課のそれぞれの目標達成のための通過の過程で、行政の活動目標達成していくため、資料4-2で各課が活動目標で該当するところにチェックをつけていただいて、それを報告書として事務局に提出していただき、事務局にて総合評価として行政の活動目標、自己評価、今後の方向性をまとめたものを資料4-3のようにしようかと考えています。

ただし、行政も団体と同じように、市民の文化芸術活動ビジョンをどれだけ達成できたのかというところも見えたほうがいいかなと思いましたが、資料4-3の下部に記載しておりますが、こちらの記載している数字が迷わせるようなものだったので混乱させていると思いますが、行政の活動目標とビジョンはリンクしていると思っておりますので、事業数はそのまま数字としてはくるかなと思っており、皆さんからご意見いただければというところです。

吉田副会長：ここの事業総数が、今、24つなっていますよね。これは事業数を足した数が24なので、たまたま同数になっているのか、複数回答するから事業数はもっと少ないと思うのですが。

事務局：はい。例としての数値としてあまりよろしくなかったなと思っております。1事業1項目としてしかあげておらず、困惑させてしまい申し訳ございません。吉田副会長がおっしゃられているように、本来であれば、1事業に活動目標が複数該当してくるはずのため、事業総数としておそらく少ないはずと思われます。左側の事業数の合計より、事業総数は少なくなると思われれます。

吉田副会長：分かりました。はい、ありがとうございます。

大音委員：すみません。よろしいですか。

都甲会長：どうぞ。

大音委員：今のもう一度確認させてください。事業総数は、1事業についてこの紙というのは、評価は1枚出てくるんですよ。

事務局：各課の1事業に対して、報告書は1枚出てきます。

大音委員：1事業というのは、その中にいくつかのここの数が入ってくる。

事務局：入ってきます。

大音委員：だから1事業の中には何とかねって何とかねって、こうやってそれをまとめて一つの事業になっている。

事務局：行政の活動目標の回答について、ですよ。

大音委員：先ほど最初に聞いたのはね、事業の評価ということで自己評価というのがちょっと引っかけたんですよ。この自己評価というのは、それって行政さんの評価なんですよということでお聞きしたら、そうですということでしたけれど、そのときに、事業名というのがあって、ある事業が一つあると。この担当課というのは、事業名というのをいくつか持っているんですよ。いくつか、そうすると、その次事業にはそれぞれの名前があるかなと思ったんです。今先ほど聞いてたら、ある事業大きなものがあって、その中に細分化されている

なものが、あるというふうに聞いちゃったというふうな頭になったんですけど、そこは、間違ってますか、そこだけ教えてください。

事務局：大音委員の意見について、整理させていただいてもいいですか。

まず、1シート1事業です。今の内容は、回答が個々の事業の中でいくつか選べる複数回答ができるからということになるので、1シートの中にいろんな事業がでてくる、ということではないです。仮に並んだとしてもそれは一つの事業としてカウントしていくということになります。

大音委員：はい、分かりました。いや、そうしないと何やってるか、分かんなくなると。

そのときにね、自己評価というのが前から引っかかって、これ、担当課の評価なんですよ、ね。

都甲会長：はい、事務局。

事務局：はい。端的にいうと担当の評価なんですけど、基本的に行政の評価ということで考えていただいていると思います。同義だというふうに思っています。

大音委員：自己評価というと、出してきたほうが自己評価しているというふうにとっちゃったんで、それでお聞きしたいんですよ。これは評価するのは、行政の担当課さんがいるんだしたら、これは評価でいいのかなというふうに僕は思った次第なんです。

事務局：お答えになるか分かりませんが、事業をしたものを評価し、事業をした主体が評価しているというふうに、そういう意味合いで今回出させていただいております。

ただそれが、自己評価という表現がおかしいのではないかと、ということであれば、ここを改めないといけないなというふうに思います。

都甲会長：（その自己評価は）たぶん主観評価ですよ。客観ではなくて、実施したほうが自分はこれいいと思っているか、成功したと思っているかどうか、自分で思っているということ、各々が評価するというところでよろしいですか。

松田委員：はい。

都甲会長：はい、松田委員。

松田委員：松田です。この総合評価の項目の中での数字はあくまで例ですよ。それで、例えば自己評価に事業数が少ないですけど、事業数は24ありますので、24項目で出てきますよね。ここには事業者が少ないじゃないですか。自己評価で5件しか出ていませんけれど、24件は取れないんでしょうか。

事務局：今回はあんまり数字にとらわれていただきたくないところがございまして、事業があり、その事業の中で、いくつかチェックする欄があり、たまたまここここがチェックされて、ということで同数になっているのは分かりにくいのですが、ご心配されることはないというふうには思っております。以上です。

松田委員：それとですね、パーセントのところ、これは事業数の構成比率ですね。この表現だと紛らわしいなと思います。1番下のところで、市民の文化芸術計画ビジョンの項目にパーセントがありますが、このパーセントは外していいのではないのでしょうか。パーセントではなく、事業構成比とか。

要するに、事業数として、6項目分けて、その構成比です。これは事業数というよりは、一つの事業の中でも複数の活動があるはずなので、私は単純に活動目標で活動数でいいのではないかと思いますけれど。

事務局：はい、確かにおっしゃるとおりだと思います。こちらは言葉を変えさせていただくと、あと松田委員がご指摘なさったように、表頭にパーセントがどんって書いてあると何のパーセントなのか分からないので、項目名を入れたうえで、単位パーセントあるいは中にパーセントを書くというような形で修正をさせていただこうと思います。以上です。

都甲会長：はい。ありがとうございます。それでは、そこのところご検討をお願いいたします。
はい、吉田副会長。

吉田副会長：はい。この総合評価というのは、1シート1事業ごとに、担当課で作成してもらったものを集めて、その総合的な評価、つまり行政の今年度のというか、その年の評価っていう意味ですか。

事務局：はい、そのとおりです。

吉田副会長：はい、分かりました。

事務局：すみません、先ほどの少しだけつけ加えさせていただくと、前回の審議会資料として、令和5年度の第1期計画に基づく行政の文化芸術活動報告書を提出させていただいたときに、各担当課の各シートをまとめて冊子程の資料になっていたかと思いますが、それと併せて、まとめ表というものを提出させていただいておりました。そのまとめ表というのを、今回、総合評価という形に変えて、まとめたものを分かりやすくお見せする形にしようかなと思って、総合評価という形で提出させていただいております。

都甲会長：ほか、いかがでしょうか。

この総合評価の資料4-3ですが、自己評価、今後の方向性と書かれているのですが、これは活動目標ごとにできないものかなあと思ったのですが、それはあまり意味がないことでしょうか。①から⑥のいろんな活動があると思いますが、それが例えば効果がずっと上がっていて、今後も拡充する、とすればそういう表現もできそうだし、ここの自己評価と今後の方向性が何をもちて自己評価と今後の方向性なのか、対応するものが見えなさそうなので、希望としては、行政目標ごとに何かうまくまとめられる方向があれば、それもいいのかなと思いました。いかがでしょうか。

委員の皆様も、はい、吉田副会長。

吉田副会長：はい、私も同じように感じたのですが、例えばさっきの話し合いで行った団体のアンケートのようというか、同じようというか、資料3-2の(2)のようになると、該当するかどうかと自己評価と今後の方向性というのがそれぞれ分かるのではないかと思いました。

事務局：資料4-2の(1)のところを、団体アンケートの資料3-2の(2)のようということですよ。そうしましたら、市の資料4-3のところで、活動目標に対する自己評価、今後の方向性の全体の出てくるのではないのかなということだと思うのですが、そこは間違いなかったでしょうか。

都甲会長：そのほうが、分かりやすいのではないかなと思いました。この総合評価の中で自己評価、今後の方向性がそれぞれ書かれていますが、何の自己評価がこの表になって、この総合評価になるのかと分かりにくいなと思ったので、何か活動目標ごとに何かうまく整理する方向がないのかなというふうに感じました。

事務局：分かりました。今、都甲会長、吉田副会長からいただいた意見について、事務局のほうで内容整理と検討をさせていただければと思います。

都甲会長：はい、よろしくをお願いいたします。ほか、いかがでしょうか。はい、松田委員。

松田委員：はい。松田です。今の自己評価の件ですが、ほかの事業では、行政はこういう評価されているのでしょうか。ここだけ見ると、自己評価するための根拠が見えないんですね。自己評価の根拠、それから、他の事業もこういう評価の仕方なのでしょうか。

都甲会長：はい、事務局。

事務局：はい。基本的に行政は計画を立てますと、それぞれの指標があり、それに対してどういったことかという成果があり、それに対して自己評価があつて、場合によっては外部評価を入れるという手法をとっております。そのため、それに準じて、こちら外部評価とまではいきませんが、自己評価まではさせていただきたいなというふうに思っております。根拠がないというふうにおっしゃったので、根拠を示すのは非常に難しいのですが、計画がありますので、計画に対してどういった進捗があつてどういった成果が出たかというのは、何かしらの形で表現をしていきたいというふうに思っています。以上です。

都甲会長：はい、ありがとうございます。自己評価は、基本的に、いい方向に評価しがちですね。余談ですが人事評価の自己評価も同じですね。ほか。いかがでしょうか。特段無いようでしたら、以上にしたいと思えますけども、今日出ました団体並びに行政の項目の検討事項については、事務局で検討をよろしく願いいたします。

また、団体のアンケートを、年度内に1度、5、6団体でも1回実施してみるような方向にしたらいかがでしょうか、ご協力いただける団体さんがあればと思いますが、一度この項目でいいのかどうかというアンケートの項目を検証できればと考えますので、実施したほうがいいのではないかなと思うのですけど。審議会は、年度内にあと何回実施するのでしたっけ。

事務局：はい。このあとご案内しようと思っておりましたが、漠然と冬ぐらいにと考えていますので12月とか1月とかに、もう1回開催させていただければというふうに思っております。そこである程度方向性が出れば、年度末ぐらいには可能なのかなというふうに思っております。

都甲会長：はい、ありがとうございます。その時点で、アンケート内容の修正も出せそうなので、もう一度議論をして、年度内に実施するのであれば、その時点で方向性を決めるということでもよろしいかなと思います。

全体をとおして、アンケートの設問項目についてという今回の今日の協議事項でしたが、最後に何かございますか。なければ、このまま議事を事務局にお戻ししたいと思います。

ありがとうございました。

4 その他

5 閉会のことば